



Atsuko Kudo Mail Magazine 228

2017.07.17 Madrid

- ベゴーニャとホアキナ ●バイブル・スタディー
- スペインのプロテスタント

お元気でいらっしゃいますか？

6月28日、無事にハンブルクに戻りました。札幌の父は、鼠経ヘルニアの術後の腹部にたまった水も少しずつ減っているようで、動きに注意をしながら、野菜作りに精を出しているようです。皆さまのお祈りに感謝いたします！

7月の4日から7日は、マドリッドに行っていました。以下、皆さまにご報告いたします。

●ベゴーニャとホアキナ

今回のスペイン行きの目的のひとつは、スペイン人の友人ベゴーニャのお母様、ホアキナの90歳のバースデーパーティーに出席するためでした。

ハンブルク教会のスペイン人の友人、ベゴーニャは、1987年の夏、マドリッドの私の部屋で救われました。その年、宣教師一家と私はハンブルクに宣教地を移しました。その翌年、神様の不思議な導きで、ベゴーニャも「オーペア・ガール」としてハンブルクにやってきました。「オーペア」とは、海外にホームステイし、その家の子どもの保育や家事をしながら、受けた報酬で語学などを学ぶプログラムです。

ベゴーニャは、ハンブルクの教会で弟子訓練を受け、神のみことばに育まれて、数か月のうちに大きく変わりました。クリスマスにマドリッドの実家に帰省した時、家族は彼女の変えられた姿に驚きました。その姿が大きな証となり、ご両親、お兄さんの家族全員がイエス・キリストを信じました。

それまで、ホアキナは精神的な病をかかえており、ちょっとしたことで怒鳴り、その怒鳴り声は、時に30分以上続くことがあったそうです。けれども彼女がイエス様を信じてから、病は少しずつ癒されて行きました。数年後にはもはや怒鳴り声は聞かれなくなり、彼女の口からは、主への感謝、賛美、祈り、聖書のことばがとめどなく溢れ出るようになりました。今、彼女は素晴らしい伝道者です。90歳ですが、写真のとおり、とても若々しくお元気です。

ベゴーニャは、お母さんの90歳の誕生日を、親族や友人たちへの伝道の場にしたと一年前から祈り準備を始めました。7月5日、ホアキナが所属する救世軍教会で行われたパーティーには、約60名がお祝いに駆けつけました。

スペイン人のほとんどはカトリックです。真の信仰を持っている人もいますが、多くのカトリック信者は、良い行いによって救われると思っています。そこで、ベゴーニャは「福音派」と「福音」の意味を最初に皆さんに説明しました。その後、ホアキナが、聖霊に導かれて、感謝に溢れた祈りを捧げました（写真、マイクを持っているのがベゴーニャ）。その後、私たちは、何人かの人々に福音を伝えることができました。主が、ホアキナの親族、友人たちを、イエス・キリストにある確かな救いへと導いてくださいますように！



● バイブル・スタディー

今回も、マドリッド日本語集会を導いておられる吉川祥永（きっかわよしえ）さん、フェルナンドさんご夫妻のお宅にお世話になり、良き交わりの時を持たせていただきました。以前メルマガに書かせていただいたイサク君（写真）は、10月で4歳になります。主の御手に守られて、すくすくと育っています。



今回は、日本語礼拝に集っておられる求道者のお二人のために、バイブル・スタディーをしました。自分が罪人であることが分からないということだったので、「罪の意味とその結果」「キリストの死とよみがえりの目的」について学びました。神の救いのご計画についての基本的な事柄でしたが、私自身が、特に、罪の意味とその結果、イエス様の贖いのみわざを、しっかり整理させていただく時となりました。

罪とは、基本的に、神が人にお与えになった機能を果たしそこなうところにある。神は人を、神の栄光をあらわすために、神に似せておつくりになった。「男は、神のかたちであり栄光である」（I コリント 11:7、口語訳）。だから、神の栄光をあらわすに足りない いかなる人の行為も罪深いものである。



その罪の結果、人は思いにおいてむなしくなり、心において暗くなった（ローマ 1:21）。それは、何よりも陰険で、直らない（エレミヤ 17:9）。そこから、悪いもの——悪い考え、不品行、盗み、殺人、姦淫、食欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさが出て来るのである（マルコ 7:21-22）。

イエス様は、その罪人を救うためにこの世に来られ（I テモテ 1:15）、罪人を招き（マタイ 9:13）、十字架で私たちの罪を負ってくださった（I ペテロ 2:24）。だから、イエス様は、ご自分によって神に近づく人々を完全に救うことができになる（ヘブル 7:25）。

神の栄光をあらわすに足りない いかなる人の行為も罪深い—— こう語りながら、自分自身がいかに神の栄光をあらわすことを怠ってきたかを示され、悔い改めさせられました。その私の罪のために十字架にかかってくくださったイエス様の贖いのみわざに感謝します！いつもこの原点を確認しながら、今、すべての点で主の栄光をあらわす生き方へと導いていただきたいと願っています。

求道者のお二人は決心には至りませんでした。罪の意味と、自分たちが罪人であることは理解できたようです。どうぞ、主が、このお二人を確かな救いへと導いてくださいますように。また、マドリッド在住の邦人の救いのため、祥永さん、フェルナンドさんの働きのため、マドリッド集会のこれからの歩みと祝福のためにお祈りください。

● スペインのプロテスタント

スペインは、国民の7割がカトリックの国ですが、近年、プロテスタント信者が増えています。この10年間でその数は2倍になり、人口約4千600万人のうち、その3%にあたる150万人がプロテスタント信者です。しかし、その多くは、スペインに職を求めてやってきた中南米人と、ロマ（ジプシーと呼ばれて来た集団）で占められています。ホアキナが集う救世軍の教会も、九割が中南米人でした。

生粋のスペイン人への伝道は、日本人への伝道より難しいように思います。その理由のひとつは、フランコ政権時代、カトリック宗教を利用した（悪用した）独裁政治に国民がうんざりし、体制が変わってからは、その反動で、キリスト教的道徳観から大きく離れて世俗化し、特に性的倫理が大きく低下したことにあるのではないかと思います。



ドイツでは、大変残念なことに、今年の6月30日に同性婚が認められました。しかし、スペインでは、それより12年も前の2005年に同性婚が合法化されています。カトリックの国なのに、と思われるかもしれませんが、信者として登録はしていても、その多くは余りミサにも行かず、無神論、不可知論に傾き、世俗的に生きている人も多いのです。その陰には、人の思いを神から引き離そうとする敵の霊が大きく働いていますから、スペインは霊的な壁が厚い国と言えるでしょう。この壁を打ち砕くには、多くのとりなしの祈りが必要です。皆さま、スペイン在住の邦人の救いと同時に、スペイン人の救いのためにもどうぞお祈りください。

●お祈りください

8月3日（木）～6日（日）にライブツィヒで開催される、『第34回ヨーロッパ・キリスト者の集い』のために。

－4日（金）には、バツハが長年カントールを務めたトーマス教会（写真）で「賛美の午後」が行われますが、5人のスタッフと共に祈りつつ準備を進めています。主の栄光があらわされる、素晴らしい賛美の時となりますように。



－大会中3回に亘って行われる分科会「バツハと信仰」にて奉仕をします。素晴らしい学びの時となりますように。

－主催教会である、ミュンヘン日本語教会のため、また、主が参加者を怪我や事故から守り、豊かに祝して下さいますように。

－AKWMからは、ドイツ、日本、ブラジルから10名の方々が大会に参加されます。どうぞ、主がみなさんの旅を守り、素晴らしい交わりの時を与えて下さいますように。

主イエス・キリストの平安と恵みが、皆さまと共にありますように！

Atsuko Kudo



マドリッドのレストランにて。右から、ベト（日本に宣教師として行くことを祈り願っているコスタリカ人）、ダニエル（マドリッドで私を信仰に導いてくれたアメリカ人宣教師）、カローリーナ（マドリッド出身、ハンブルクで救われ、現在アメリカ在住）、ベゴニヤ。